学校番号	3010

令和5年度　工業（プロダクトデザイン）科

教科	工業	科目	課題研究	単位数	3 単位	年次	3 年次
使用教科書	自主編成教材						
副教材等	なし						

1担当者からのメッセージ（学習方法等）

課題研究では3つの班に分かれ、希望する1セクションを選び生徒が自ら問題意識を持って課題を決めていく。1. 照明デザイン、2. ファシリティーデザイン、3. アートジュエリーデザインが設定される。各班で教科担当者と相談しながら学習を進めていく。受け身ではなく、能動的に課題を進めていくことを重要視。コンペティションにも積極的に参加する。作品のプレゼンテーションや情報発信にも重点をおき、自己がデザインした作品を発信する手法にも取り組む。

履修条件
なし

2学習の到達目標

プロダクトデザインに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得したもの活かして社会に通用しうる作品作りに挑む。自ら課題を見つけて解決していく。自己のテーマ設定をしっかり行い、分析・検討を生徒自ら行うことを求める。デザイン工程を計画し、調査・検討・デザイン企画・情報発信をデザインワークとして取り組む。最後に様々な方法でのプレゼンテーションに取り組む。

3学習評価 評価 規準 と評価方法

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	プロダクトデザインに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、時代に適応した技術や表現方法に配慮し、デザインを適切に表現するスキル習得をめざしていく。	生徒自らがプロダクトデザイン分野の諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、表現する創造的な能力を身に付けていく。	課題を見つけて解決していくプロセスを学ぶ。課題について関心を持ち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、デザインの実践的な態度を身に付けている。	課題を見つけて解決していくプロセスを学ぶ。課題について関心を持ち、自ら設定した問題について理解を深める。
評価方法	学習状況の観察 企画・コンセプト アイデアスケッチ 相互評価等	学習状況の観察 企画・コンセプト アイデアスケッチ 作品制作過程・作品 相互評価等	学習状況の観察 作品制作過程・作品 プレゼンテーション ツールの作成 相互評価等	学習状況の観察 企画・コンセプト 作品制作過程・作品 相互評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	照明デザイン	●グランドテーマ提示 ・個人テーマ設定 ・情報収集 ・コンセプトワーク ・アイデアスケッチ ・パースおよび三面図 ・モデル制作 ・作品制作 ・プレゼンボード制作、又はプレゼン映像制作 ・発表	○	○	○	○	a:個人テーマを考え、アイデア・コンセプトを決める。 b:機能的で魅力的なデザイン。 c:設計図に基づいて計画的に制作できたか。 d:クオリティの高い制作作業ができたか。	学習状況の観察 コンセプトワークとアイデアスケッチの記述 試作モデル 制作工程 作品のデザイン プレゼンテーション 取り組み姿勢 自己評価・相互評価等
2	ファシリティーデザイン	●グランドテーマ提示 ・個人テーマ設定 ・情報収集 ・コンセプトワーク ・アイデアスケッチ ・パースおよび三面図 ・モデル制作 ・作品制作 ・プレゼンボード制作、又はプレゼン映像制作 ・発表	○	○	○	○	a:個人テーマを考え、アイデア・コンセプトを決める。 b:機能的で魅力的なデザイン。 c:設計図に基づいて計画的に制作できたか。 d:クオリティの高い制作作業ができたか。	学習状況の観察 コンセプトワークとアイデアスケッチの記述 試作モデル 制作工程 作品のデザイン プレゼンテーション 取り組み姿勢 自己評価・相互評価等
3	アートジュエリーデザイン	●グランドテーマ提示 ・個人テーマ設定 ・情報収集 ・コンセプトワーク ・アイデアスケッチ ・パースおよび三面図 ・モデル制作 ・作品制作 ・プレゼンボード制作、又はプレゼン映像制作 ・発表	○	○	○	○	a:個人テーマを考え、アイデア・コンセプトを決める。 b:機能的で魅力的なデザイン。 c:設計図に基づいて計画的に制作できたか。 d:クオリティの高い制作作業ができたか。	学習状況の観察 コンセプトワークとアイデアスケッチの記述 試作モデル 制作工程 作品のデザイン プレゼンテーション 取り組み姿勢 自己評価・相互評価等

※　表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c:技能　　d: 知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。